

⑬ これからの公共施設について 第1回 -現状と課題-

市は、人口の増加や行政需要の拡大などを背景に昭和40年代から50年代に学校・公民館等の多くの公共施設を整備してきました。これらの公共施設は、経年劣化が見られ今後維持管理していくうえで、大きな財政負担が生じることが予測されます。現在、公共建築物の半数以上が築後30年以上経過しています。このままの施設を維持すると20年後に90%以上が老朽化施設となります。

図1 施設用途別の建物延床面積の内訳（公共建築物）

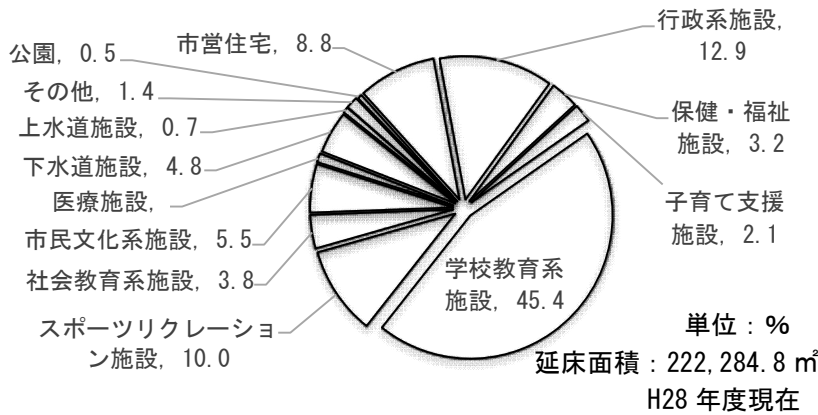
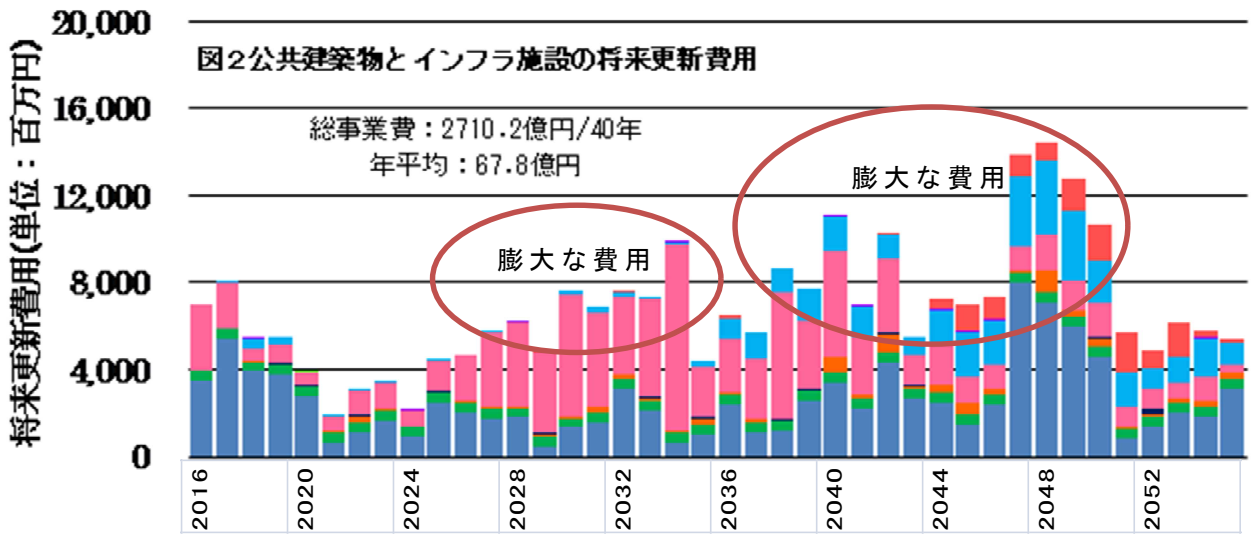


表1 インフラ施設の総量

施設累計	総延長・総面積
道路	1,474.8km
橋梁	4.5km
公園施設	36.4ha
上水道施設	849.4km
下水道施設	294.3km
農道	93.4km
林道	31.4km
集落排水施設	110.3km

※インフラ整備はH20年頃をピークにその後、減少しています。



将来更新費用は、法定耐用年数により算定した結果を用いて公共建築物とインフラ施設の総事業費を重ね合わせると、今後40年の総事業費は2,710.2億円で年平均67.8億円となります。過去5カ年の公共建築物と、インフラ施設に関する投資的経費の合計の年平均は44.2億円で、23.6億円の財政不足が見込まれる計算となります。よって、更新経費の縮減が必要であることから、市は平成28年に基本方針である「笠間市公共施設等総合管理計画」を策定したところです。

現在、住民サービス面とコスト面の調整により、将来更新費用のうち投資的経費のバランスを図るため、施設の適正配置計画を検討しているところです。

今後、全6回を広報かさまお知らせ版に掲載します。

問 資産経営課(内線 573)

回数	発行予定日	テーマ
第1回	7/30	施設の現状と課題
第2回	8/6	笠間市公共施設等総合管理計画
第3回	8/20	笠間市公共施設等適正配置計画
第4回	8/27	施設取組1 長寿命化
第5回	9/3	施設取組2 複合化
第6回	9/10	施設取組3 公民連携